

質問①

水野洋一議員

国指定天然記念物・幌満キタゴヨウ自生地の管理・運営等について

問 幌満キタゴヨウの所管・管理運営等の実態について。

答 幌満キタゴヨウ自生地は、昭和18年（1943年）8月、国の天然記念物に指定され、土地の所有者である「北海道」が管理者であり、文化財については北海道教育委員会が所管している。

様似町教育委員会は、文化財保護に関することの管理・執行に当たる。指定地内で天然記念物の現状変更を申請する場合は、申請者から町教育委員会を経由し、北海道教育委員会、文化庁に申請書を提出しなければならない。

問 国指定より77年経過しているが、その価値や理解度について。

答 北海道教育委員会は、文化財を適切に保護するため「文化財パトロール」を実施し、年1回状況を目視で点検している。

天然記念物に指定された理由は、「代表的原始林、稀有森林植物相」に該当し、昭和18年当時の表現で「急峻なる山壁を被いて、百五十年乃至二百年生と認められる五葉松林立し、他の樹種と共に常緑針葉樹並びに落葉潤葉樹との一大美林を形成し五葉松自生地として代表的なり」と理由が書かれている。

また、ゴヨウマツは本州中部以北から北海道南部にかけて分布しているが、他の自生地では、細々と小規模に生育する例が多いのに対し、幌満のものは、山腹全面を覆うように樹林を形づくっている。ヒダカゴヨウは、様似町の木に指定されており、町民に知られていると思う。また、小学校の副読本をはじめ「様似町の文化財」、「アポイ岳ジオパーク」のパンフレットやガイドブックへの掲載、アポ岳ジオパークビジターセンターの展示を通じ、町民への普及啓発を図っている。

問 3年後、国指定80周年を迎えるが、記念事業等の計画について。

答 これまでも周年事業は実施しておらず、現在のところ特別な事業計画はない。幌満ゴヨウマツ自生地は、指定範囲が山奥で、通常立ち入ることができず、アポイ岳に比べるとなじみが薄いが、様似町にある誇るべき文化財の一つであることから、一般向けの「普及啓発事業の開催」や学校での学習支援などを通じ、文化財の保護と普及啓発に取り組む。



▲

質問②

幌満自然公園「杉本公園」の管理、運営、利用等について

問 幌満自然公園の管理・運営などの実態について。

答 昭和49年8月に元北海道議会議長を務められた杉本栄一氏から様似町が土地の寄贈を受け、当時の日高支庁、様似町、様似ロータリクラブが費用を負担する中、遊歩道・幅員1m延長566m、木造ベンチ4基、石積ベンチ2基、木製橋梁2か所などを整備し、10月に町立公園に指定された。

近年の維持管理は、国定公園内ということもあり、自然のままの状態が良いとの考えから、草刈りなどの維持管理をしなかった時期もあったが、議会からの指摘・要望から、平成27年度からは、公園内の草刈りなどの維持管理を実施。

問 今後、この公園をどのように維持管理し、利活用を進めるのか。

答 昭和49年の整備から46年が経過し、木製橋梁、木造ベンチ、石積ベンチの老朽化が著しく、劣化、破損している現状。遊歩道には、雑草む、および風倒木が多数横たわっている現状。

今後、木製橋梁の補修、風倒木の整理、遊歩道の草刈り等、維持管理に努める。

質問③

町所有管理している建物で、解体の対象になっている件数等、今後の取り扱いについて

問 町が所有管理している建物で、解体対象件数と全部解体する為の概算総額について。

答 建物の総数は、19棟46戸であり、概算の解体総額は約8700万円ほどと想定しておりますが、現在未定としている建物については、過疎債のソフト事業として年に約1千万円から1500万円の枠の範囲で実施したい。



質問①

全戸配布の町民アンケート（昨年度実施）調査について

髙村洋子議員

問 町民アンケート（来年度から始まる10年間の計画）の集約と町民意見、要望の反映についての考え方は。

答 第９次様似町総合計画策定のため、自治会配布による全戸配布で１９１８世帯を対象に、回収率は42・02％（８０６世帯）、男性56％、女性44％、世代別では60代～70代の回答が67％となっている。

記述による要望については、各事業・町内会等の見直し、公共交通のバス運行、児童子育て支援「学校給食実施」、高齢者福祉や若者が安心して暮らせる町など。

回収率は、第7次から比べると若干悪くなった。

問 42％の回収率の低さに驚く。８次計画のアンケートは75・1％であった。町民の意見を広く聞くと答えているが、感想は。

答 特別な感想はなく、意見も全てを網羅できるわけではない。今後振興審議会、委員会で意見聴収する。

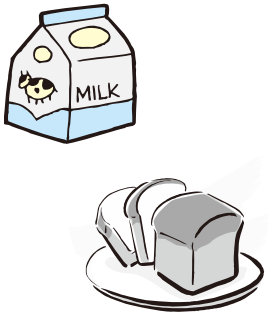
問 ジオパーク事業に特化して経費をかけ過ぎるなどの意見も多数あるが、町政懇談会、町長とのトークなど何回行ったか。

答 ０回である。

問 町民は「完全学校給食」など要望しても未だ実施されないことから、諦めてしまっているのではないか。アンケートの回収率や町政懇談会の開催なしからうかがえる。

答 自主財源を持たない小さな町は、国からのお小遣いを貰って生活をしている。町民の方々の努力や工夫も必要であり、まちづくりに積極的に参画していただきたい。

自治会長会議で町政懇談会の開催をお願いしているが、手を挙げていただけないが、第９次の計画には少しでも町民の声を結びつけたい。



質問②

住民のくらしに直結する様似町の年度予算編成について

問 住民のくらしに直結する様似町の令和２年度の予算編成について、１事業予算が二重計上提案されている。例を見ない提案の理由を小学生にも理解できるよう解りやすくお答えただきたい。

答 予算の編成においては、行政サービスの水準を維持し、町内の経済活動も維持しなければならないので、不足する財源は、減債基金及び財政町政基金により均衡を計っている。

新年度の公の施設「アポイ山荘」の指定管理者が決まっておらず、公募期間も短く応募も未定のまま予算提出期日が迫っていた。今議会で新しい指定管理者が認められない場合を見据え、指定管理者による管理料と町直接運営の経費を過去に例のない重複計上させていただいた。どちらかを６月議会で減額修正の予定でいた。

問 事情があると思うが、行政と所管の委員会の都合であり、住民や子供には不透明で仕組みも解らない。学校教育は、税金を理解する授業や税を知る標語の募集もされている。納税義務のみならず、税金の使い方も理解してもらう意味では、正しい説明になっていない。

答 アポイ山荘の運営は、限定された懸案事業であったので、議会の所管委員会に何回も調査を行っていただいたが、方向性が決まらず二重計上となった。今後は気をつけて進めていく。

問 予算編成でもう一つの心配は、課長職と一般職員に対して非礼に感じている。交付金頼みの限られた財源であるから、各課の予算もほぼほぼ減額査定されたのではないか。そんな中で二重に予算組みされたら、職員の士気が下がるのではないか。

答 現場の各課が一番町民の思いを受けていると思う。この予算編成を終え、月例挨拶の席上「ごめんなさい」とお詫びした。住民サービス、福祉の向上を考えると、何年も待たせるのではなく実施に努めたい。ご指摘を受け二度とこのようなことがないように進めていきたい。

